

Oracle Success Story

Oracle Financing



エニーミュージック株式会社

CE機器でダウンロードできる音楽サービス「エニーミュージック」 オラクル製品の分割払いで初期投資を低く抑えながら、高品位なシステムを構築

“お客様は使い勝手のよさでCE機器をお求めになっているわけですから、品質に敏感です。オーバーカオリティでも、最初から高いところにシステム品質を設定していました”

エニーミュージック株式会社 サービス事業部 統括部長 栗原 章氏



エニーミュージック株式会社
システム推進部
統括部長
蓑島 俊和氏



エニーミュージック株式会社
サービス事業部
統括部長
栗原 章氏



エニーミュージック株式会社
経営企画室
室長
吉原 学氏

高音質でネットワーク対応 新しい音楽サービス

インターネットから音楽を手軽にダウンロード購入して、なおかつAV機器のハイクオリティなサウンドで楽しみたい——。そんなユーザーの期待に応えるのが音楽サービス「エニーミュージック」だ。

運営するエニーミュージック株式会社（以下、エニーミュージック）は、AV機器メーカー8社による共同出資で設立された。メーカー各社はホームオーディオ機器にエニーミュージックボタンを搭載。ユーザーは「エニーミュージック」のサービストップ画面から、簡単なりモコン操作で次のサービスが受けられる。

①音楽ダウンロード・メガサイト「mora」の最新J-POPから洋楽まで数十万曲という豊富なラインナップの中から、好きな曲の試聴・ダウンロード購入ができる。

②国内最大級のCDショップ「HMV」の膨大なラインナップの中から手軽にCDの予約・購入ができる。

③FMから流れている番組名、曲のタイトル・アーティスト名を表示。その音楽をもとに楽曲ダウンロードやCDを購入することができる。

こうしたサービスの利用には「エニーミュージック」への利用登録が必要で、登録手数料、月額利用料がかかる。ダウンロードの料金は1曲150円から、アルバムは525円からとなっている^(※)。

高音質の楽曲を手軽に、豊富に楽しめるだけでなく、PCを使わずに音楽をダウンロードするのがうれしい。また、ストリーミング配信ではないため、ダウンロードした楽曲を繰り返し再生できるうえ、携帯電話やミュージックプレイヤーへ転送できるのも魅力だ。「エニーミュージック」は、ネットワークを介して新しい音楽の楽しみ方を存分に味わえるサービスなのである。

Any Music 画面



ソニー NAS-M7HD

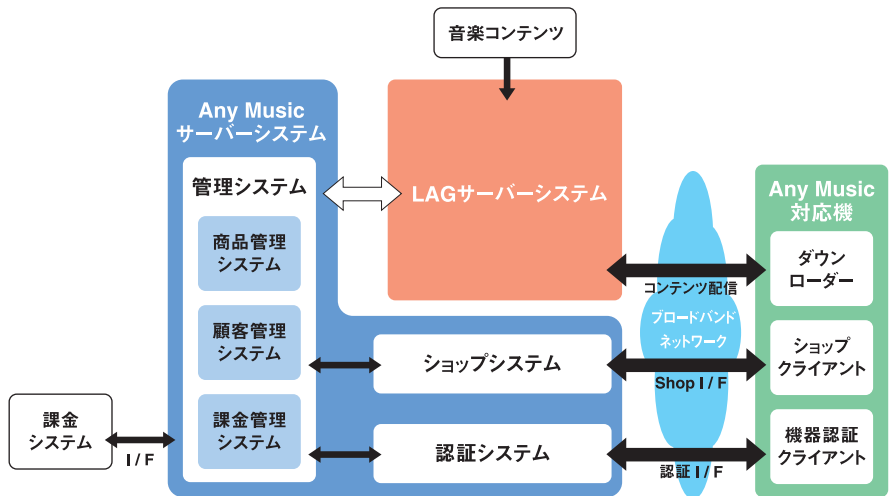
システムダウンは許されない 信頼性の高いデータベースが必要

CE（コンシューマ・エレクトロニクス）機器に対して音楽サービスを提供する「エニーミュージック」。その仕組みの中核ともいえる顧客管理、商品管理、課金管理の各システムは、OracleのデータベースとRAC機能で構成されている。

Oracleが導入された背景には、「エニーミュージック」というサービスのクオリティを徹底的に高めようとする姿勢がある。エニーミュージック システム推進部 統括部長 蓑島俊和氏は、「エニーミュージック対応のオーディオ機器はCE機器であり、一般の家電と同じ品質、同じ使い心地が求められます。つまり、オンラインサービスではあるものの、システムダウンが許されない世界なのです。したがって、システムを構成する製品も信頼性の高いものが望まれます。そこでデータベースの安定性に定評のあるOracleに着目したというわけです」と説明する。

また、PCと違ってCE機器は5年、10年と長く使われる製品である。「事業の継続性を考えると、サービス体制が手厚く、しかも長く面倒を見てくれるベンダーとお付き合いしたかったということもありますね」と蓑島氏。さらに、エニーミュージック サービス事業部 統括部長 栗原章氏は、「他のデータベース製品とも比較検討しましたが、オラクルなら開発中に技術情報を提供してくれると

音楽サービス配信システム機能図



CORPORATE PROFILE

エニーミュージック株式会社

創業： 2004年（平成16年）2月1日
資本金： 6億円
事業内容： 音楽サービス「エニーミュージック」の企画・運用、配信システムの開発・運用
製品とサービス： ・Oracle Financing
・Oracle Database
・Oracle Real Application Clusters
導入効果： ・初期投資の軽減
・高品位なシステムの構築
・安定した運用
・月々の支払い額の明確化
・資本の効率的な活用
・購買プロセスの簡略化
・迅速なサポートの享受
URL： <http://www.anymusic.jp/>

過去の開発経験で知っていたので、開発者としても安心できました」と言葉を添えた。

無理のない形で
技術と資金の窓口を一本化

まずはOracleを試験的に導入し、他システムとの連携を図るインターフェースを作りこんでいった。一方、開発と並行して、オーディオ業界と歩調を合わせるための折衝も続けられていた。

ネットワーク化に対応しながら、オーディオの世界を再活性化するのがエニーミュージック設立の狙いだ。同社の使命は、オーディオ業界と音楽業界が共存共栄できる市場を掘り起こすことにあるわけだ。とはいえ、両業界にまたがって新規事業を立ち上げるのは、たやすいことではない。

蓑島氏は「エニーミュージックの存在意義をレーベルやメーカーの方々に納得していただく必要がありますが、それぞれの方針や優先事項がありますから、足並みを揃えることはなかなか難しいです。エニーミュージック対応の機器の市場投入が遅れると、思うようにユーザーを獲得できません」と明かす。

サービスを本格化するにはオラクル製品を正式に購入しなければならない。しかし、財務戦略上、この段階でのライセンス一括購入は避けなかった。

この悩みをオラクルの担当者に相談したところ、

Oracle Financingを紹介された。オラクル製品を導入する企業にフレキシブルな支払いプランを提案するというものだ。そこでエニーミュージックは事業計画をオラクルに説明。その後、オラクルからライセンスを分割払いで購入するという支払いプランを提示され、採用に至る。Oracleの本格導入も無事に完了した。

エニーミュージック 経営企画室 室長 吉原学氏は、「選択肢としては一括購入、リース、レンタルの3つがありました。しかし、例えばリースならリース先をこちらで探さなくてははいけません。その手間がなく、無理のない形で、しかも技術面もお金の面もまとめて面倒を見てもらえるのが便利です」と、Oracle Financingを評価している。

さらに、「ライセンス価格に保守料も組み込んだので、月々の支払いが明確になりました。一括購入の場合との差額を他の投資に振り向けることもできるのでありがたい」（吉原氏）と、事業立ち上げ時のキャッシュフローの厳しさを緩和できるというメリットも挙げた。

携帯電話サイトとの連携等、
いっそうのサービス拡充を視野に

初期投資を低く抑えながら、高度なシステムが構築できたのも、Oracle Financing導入がもたらした効果といえる。「対応機器が十分に市場へ投入され、利用者数が一定になるまで、システム

はそこそこの出来でよしとする発想もあるでしょう。しかし、お客様は使い勝手のよさでCE機器をお求めになっているわけですから、品質に敏感です。立ち上げ時のシステムとしてはオーバークオリティかもしれませんが、最初から高いところにシステム品質を設定していました」とは栗原氏の弁だ。ユーザーへの配慮と、そのベースにある開発者としてのこだわりがうかがえる。

栗原氏の言葉どおり、各システムとの複雑な連携があるにもかかわらず、2004年のサービスイン以来、データベースはトラブルなく稼働している。高いシステム品質はユーザーの信頼を勝ち取って、事業のさらなる発展を支えていくはずだ。

音楽との新鮮な出会いをもたらしてくれる「エニーミュージック」。今後は料金体系や決済手段の多様化、携帯電話サイトなどとの連携など、いっそうのサービス拡充が見込まれている。限らない将来性を秘めるこのサービスを、オラクルは技術とファイナンスの両面から全力でサポートしている。

（※）2006年7月現在

（本事例の内容は、2006年8月時点のものです。）